

# 文化・スポーツを活用した地域づくり特別委員会 会議記録

文化・スポーツを活用した地域づくり特別委員長 濱田 洋

## 1 日 時

平成29年12月13日（水） 午後1時02分から  
午後1時32分まで

## 2 場 所

第4委員会室

## 3 出席した委員の氏名

濱田洋、三浦正臣、衛藤博昭、大友栄二、古手川正治、嶋幸一、馬場林、玉田輝義、  
久原和弘

## 4 欠席した委員の氏名

荒金信生

## 5 出席した委員外議員の氏名

な し

## 6 出席した執行部関係者の職・氏名

企画振興部長 廣瀬祐宏、国民文化祭・障害者芸術文化祭局長 土谷晴美  
ほか関係者

## 7 会議に付した事件の件名

別紙次第のとおり

## 8 会議の概要及び結果

- (1) 文化・スポーツを活用した地域振興への取組について執行部より説明を受けた。
- (2) 国民文化祭における誘客・情報発信等の取組状況について執行部より説明を受けた。
- (3) 県外所管事務調査を平成30年1月16日から1月17日に実施することを決定した。

## 9 その他必要な事項

な し

## 10 担当書記

政策調査課調査広報班	主査	濱田誠吾
政策調査課政策法務班	主幹（総括）	南光彦
議事課委員会班	副主幹	長友玉美

# 文化・スポーツを活用した地域づくり特別委員会次第

日時：平成29年12月13日（水）13：00～

場所：第4委員会室

## 1 開 会

## 2 付託事件の調査について

(1) 文化・スポーツを活用した地域振興への取組について

(2) 国民文化祭における誘客・情報発信等の取組状況について

## 3 その他

(1) 県外所管事務調査について

## 4 閉 会

## 会議の概要及び結果

**濱田委員長** ただ今から委員会を開きます。

本日の委員会は、文化・スポーツを活用した地域づくりの取組の状況について調査をいたします。

本日は、荒金委員が欠席をしております。

各部局の取組について一括で説明をいただいた後に、まとめて各部局の取組について質疑に入りたいと思います。

それでは、まず、文化・スポーツを活用した地域振興への取組について説明をお願い申し上げます。

**廣瀬企画振興部長** 委員の皆様方には、日頃から県政の諸課題に対しまして、御指導、御鞭撻を賜りまして誠にありがとうございます。

大分県「安心・活力・発展プラン」の中で、芸術・文化につきましては、芸術・文化の創造性を生かした地域づくりを始め、産業であるとか、教育、あるいは福祉へとといった社会課題への対応を進めていく創造県おおいたの取組というのを進めております。

来年には、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭が開催されますし、スポーツですと再来年にラグビーワールドカップ、さらに2020年には東京オリンピック・パラリンピックと、ビッグイベントが次々と開催されます。この機会を捉えて、本県の魅力を国の内外に発信して地域振興を図りたいと考えております。

本格的な人口減少社会を迎える中であっても、このような芸術文化やスポーツの力を最大限に生かして、県民が生きがいを持ち、充実した生活を送るとともに、地域に活力をもたらすことが重要だと考えておまして、芸術・文化、スポーツの各種施策を進めております。

本日はまず、文化・スポーツを活用した地域振興、スポーツツーリズムや国際スポーツ大会事前キャンプ誘致など、企画振興部の取

組につきまして、担当所属長から説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

**高屋芸術文化スポーツ振興課長** 下に企画振興部と書いてある資料の1ページをお願いいたします。

文化・スポーツを活用した地域づくりについて説明いたします。

まず、芸術文化を活用した地域づくりですけれども、時系列に並べておりますが、平成16年に文化振興条例を制定しました。

そして、翌17年には、文化振興基本方針を策定いたしました。

そのアクションプランとして(3)ですけれども、平成28年3月に文化創造戦略を策定しました。

策定の中身は、戦略は5つの柱から成っております。芸術文化は人々の生活の潤いや精神的な豊かさをもたらすだけでなく、戦略3ですけれども、創造性を産業や観光の振興、人材育成や地域づくりなど、社会的、経済的課題への対応に広く活用するという取組を進めております。

また、国の動向は2に書いておりますが、今年6月、国の文化芸術基本法が施行されて、本県と同じ法体系となっております。芸術文化を観光、まちづくり、福祉、教育、産業、地域振興等に活用する取組を推進するというふうになっております。これが県と国の動向でございまして、2ページでございすけれども、では、文化を活用した地域の振興とはどういうことを行っているかということで、29年度事業を書いております。

(1)ですが、芸術文化の創造性を活用した観光誘客・情報発信といたしまして、別府市で「in BEPPU」等を支援しております。現代アートを地域振興に活用して、今年、写真の2番目ですけれども、別府タワ

一を地蔵に見立てました「別府タワー地蔵」という作品や、別府駅前の「油屋熊八翁像」をホテルにして、油屋熊八ホテルという形でやっておりますが、1日300人ほど訪れておりまして、もう1万人を超えるホテルの視察で話題になっております。

また、別府だけではありません。竹田市では、移住してきた若手アーティストが中心となりまして、中心街で現代アートや工芸の展示や、まちあるきイベントを10月に実施いたしました。

また、(2)では、アートは人材育成が大事ですので、地域とアートをつなぐアートマネジメント企画人材の育成を基礎編、実践編として、各人材を作っております。

それから、(3)ですけれど芸術文化に触れる機会を創り出しましょうという形で、音楽家やダンサー等を、例えば、特別支援学校や施設だとか、佐伯市の西浦小学校等々へ派遣する。そこで、ワークショップを行うということをしております。

また、アルゲリッチ振興財団では、学校訪問や、子どもたちを音楽祭に招待するピノキオコンサートなどを開催して、芸術文化の力を活用した教育、福祉など、社会的課題にも対応しております。

次に、3ページになりますが、スポーツを活用した地域の振興についてです。

スポーツは、①②と書いていますけど、①「する」スポーツ、②「観る」スポーツと書いていて、「する」スポーツでは、県内のプロスポーツ選手を小学校や地域イベント等に派遣して、プロスポーツ選手と一緒に県民と交流を図っているというところがございます。

また、②「観る」スポーツですけれども、多くの県民の方々がプロチームを応援する契機とし、県民の招待等を行う県民DAYを開催しております。

これが①②です。

続きまして4ページになりますが、スポーツツーリズムによる地域活性化にも取り組んでおります。

スポーツ合宿等に適した県内スポーツ施設の情報を、まず(1)ですけれども、大分県のホームページ「スポーツツーリズムガイド」というので紹介しております。その中には、競技施設や宿泊施設、病院のリスト等々が検索できるようにしております。

また、西部振興局、日田や九重町では、スポーツ合宿誘致地域活性化事業に取り組んでおりまして、各種会議、また、案内窓口の設置等々を行っております。豊肥振興局では、スポーツツーリズム講演会の開催、豊後大野市では、ホテルますの井さんがスポーツとジオパークをつなげたスポーツツーリズムに取り組んでいます。また、佐伯市におきましては、実業団マラソンチームの合宿を行っておりますし、杵築市ではスポーツ合宿コンシェルジュを設置して、合宿誘致を行っております。国東市でもウエイトリフティング等々韓国代表チームの合宿受入れを行っております。

5ページになりますが、2020年東京オリンピック・パラリンピック等を見据えた国際スポーツ大会事前キャンプ誘致についてですが、キャンプをする目的は三つあると考えております。

本県のキャンプ地としての情報発信、二つ目が括弧で囲んでおりますが競技普及とスポーツ振興、また、スポーツ分野での交流を契機とした経済的・文化的な交流の拡大をやっというところ、その3点でございます。

これまでは、2で①から⑤を書いておりますが、①ではポルトガル代表チームが来たりして、②でフィジーの女子7人制ラグビー代表チームの誘致、3番でモンゴルのテコンドー代表チームの宿泊誘致、4番目がアメリカ等々のフェンシング代表チームが大分でキャンプをしております。また、5番目では、女子ハンドボールチームの日本代表の交流試合も行われました。

いずれのキャンプも、各国代表チームと地元住民との交流やイベントを必ず行うようにしておりますので、それを通して受入競技が

普及されて、また競技力の向上にもつながっていると思っております。

このようなキャンプ受入体制を構築いたしまして、2020年を迎えられますよう、引き続き頑張っております。

以上でございます。

**濱田委員長** 次に、国民文化祭における誘客・情報発信等の取組について説明をお願いします。

**土谷国民文化祭・障害者芸術文化祭局長** 1

1月26日でございますけれども、先催県であります奈良県で、第32回国民文化祭・なら2017、第17回全国障害者芸術文化祭なら大会の閉会式が行われました。

大分県は次期開催県として大会旗の引継ぎを受けましていよいよ大分県ということになったところでございます。

私どもの事務局の職員、また県内市町村、芸術団体の皆さんとも一緒に開・閉会式、それから、分野別事業に参加させていただいたところですが、奈良県の文化を感じつつ、来年の成功に向けてしっかり準備を進めていかねばと改めて感じた次第でございます。

1月末現在、大分大会で予定されている事業数は150、うち障がい者アートに関するものが39ということになっております。

現在、市町村実行委員会で、更にブラッシュアップが図られておりまして、事業名、内容とも11月に一度公式にお示しいたしましたけれども、それから内容がだいぶ変更されてまいります。最終的な決定は、市町村等の実行委員会を経て来年4月に行われます県の実行委員会の席でと考えております。

具体的には誘客・情報発信等の取組状況につきましては、この後、担当課長から説明させていただきます。

**高橋企画・広報課長** それでは、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭における誘客・情報発信等の取組状況について御説明申し上げます。

資料はこちらの文化・スポーツを活用した地域づくり特別委員会資料、国民文化祭・障

害者芸術文化祭局と書いた資料を御覧いただきたいと思っております。

文化祭の誘客、情報発信につきましては、実行委員会の下に設置いたしました広報部会、観光・おもてなし部会で検討を行っているところでございます。

両部会での委員の意見等に基づきまして広報・おもてなしの計画を策定しておりますので、これに基づいて、この資料で御説明したいと思っております。

今ほどの資料を1枚繰っていただいて、1ページを御覧いただきたいと思っております。

まず、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の広報あるいは情報発信につきましては、上段の四角の中でございますけれども、大会の三つの方針がございます。「県民が総参加」、それから「新しい出会い、新たな発見」、「地域をつくり、人を育てる」、この三つの基本方針を踏まえまして、その下の四角でございますけれども、「県民が参加する広報」、「新たな客層の獲得につなげる広報」、「隅々まで届ける広報」、この三つを重要なポイントとして進めてございます。

資料を1枚繰っていただきまして2ページでございます。

まず一つ目の県民が参加する広報ということでございます。これにつきましては、県民の皆さんがボランティアという形で積極的な広報活動に参加してもらうということを通して、文化祭を広くPRし、気運の醸成を図るということを目的としてございます。

文化祭では、PRを担当する「手伝い隊」、それからキャラバン隊である「盛り上げ隊」、撮影ボランティアの「撮るとき隊」という、この何とか隊という三つをボランティアとして設置してございます。

「手伝い隊」につきましては、もう既に1,300名以上の方が登録をいただいているという状況でございます。また、「盛り上げ隊」あるいは「撮るとき隊」につきましても、今年10月1日に1年前イベントを開催いたしましたけれども、その場でも活躍をし

ていただきました。それも含めまして、こうしたボランティアの皆さんには、本番に向けて、これからも様々な場面で活躍をしていただきたいと考えてございます。

その下、資料の3ページを御覧いただきたいと思えます。

二つ目のポイントでございますけれども、新たな客層の獲得につなげる広報というポイントでございます。

文化祭の本来の担い手と考えられます芸術文化団体の参加者につきましては当然でございますけれども、それに加えまして、芸術に興味のある若年層とか女性、こういった方々をターゲットに定めまして、芸術・文化関係者に強固なネットワークを持ちます広報ディレクターを選出させていただいてございます。このディレクターの下で、パブリシティ活動あるいはSNSを活用した情報提供を行うことで県外からの誘客を図りたいということでございます。表の上の半分のところでございます。市川靖子さんに広報ディレクターをお願いしてございます。

誘客につきましては、その下半分のところでございますけれども、県内を周遊する仕組み、カルチャーツーリズムでございますが、これに取り組んでまいりたいと考えてございます。

今回の文化祭には文化祭事業に加えまして、地域の隠れた食を味わっていただく、あるいは歴史・文化を追体験していただく、そういったツアーを組み合わせまして、これを造成することによりまして、来県客が県内のいろんなところを回っていただくと。そこに経済的な効果も生まれてまいりますけれども、そういった仕組みを是非作っていききたいと考えてございます。

今年の7月から9月にかけて、市町村と共に観光素材の調査をしてまいりました。

実は27年にJRのデスティネーションキャンペーンがございましたけれども、そのときにも観光素材の掘り起こしをしてございますが、それに加えまして、今回、183ほど

の素材の汲み上げをしております。合わせて約500弱ぐらいの素材が今手元でございますので、そういったものを組み合わせまして、カルチャーツーリズムのツアー造成をしていきたいと考えてございますが、今現在のところは、市町村、観光協会、旅行業者と関係者の参加の下で、ゾーンを五つセットしてございます。

大分市付近が出会いの場、北部が祈りの谷ということで、五つのゾーンに分けてございますけれども、それぞれのゾーンごとに着地型の商品造成検討会を今、繰り返しやっているところでございます。

そこで造成をしたツアーにつきましては、来年度に設置予定のトラベルセンターで販売をするといったようなことも考えてございますし、商談会を通じて、旅行業者に提供したいということも考えてございます。

こうしたツアーにつきましては、文化祭終了後もしっかり引き継がれて、次のラグビーワールドカップあるいは東京オリンピック・パラリンピックといったところにもつながり、地域の魅力をしっかり味わってもらえるような、そういったツアーの造成を目指してまいりたいと考えてございます。

資料を1枚はぐっていただいて4ページでございます。

これは、カルチャーツーリズムの具体的なものを例として載せてございます。

ちょっとだけ説明申し上げますと、真ん中ちょっと上に飛行機の絵があると思いますが、例えば、羽田空港から大分空港にお客さんが来る。3人の影がありますけれども、3人のところから上側の矢印が下におりていますが、一つは、文化祭に出演する出演団体の方を想定しています。その方は、その下の文化事業という丸がありますけれども、こういった文化事業に当然参加するために来ていただくということなんですけれども、これプラス、下の温泉に入ってもらおうとか、あるいはぐるっと海岸のほうに回っていただいて、リーディング事業と書いてございますがメディアアー

トあるいはその下の津久見の檜の実合唱団、こういったものも見て回ると。県内をできれば周遊していただくという流れが一つ。

それと、もう一回この影のところの下側の矢印を御覧いただきますと、これはリーディング事業で有名な作品を目指してファンの方が来てもらうということで、必ずしも参加者ではなくて、そういった方も来てもらえば、これがまた、メディアアートに回ってもらったりとか、あるいは日田に回ってもらったりといったことで、単に目的を達して帰ってもらうのではなくて、せっかくなので、大分の地域を回ってもらう、そういった価値のあるというか、魅力のあるツアーを作っていきたい、そういったイメージをペーパーで表現させていただいてございます。

その次の5ページを御覧いただきたいと思えますけれども、三つ目のポイントでございますが、これはテレビ、ラジオといった各種メディアを使ったりとか、あるいは今、県立美術館の西壁に大きなポスターを模した絵が描いてございますが、そういった壁面の広告といったようなものの活用あるいはイベントを計画してございますけれども、そういったもので気運の醸成を図っていくところでございます。

また、10月1日に行いました1年前イベントでは、音声の読み上げソフト、そこが一番下のところにSPコードと書いてございますけれども、このコードをスマホにかざすと、800字ぐらいの文字の読み上げができますので、そういったソフトも活用しながら、これはチラシにこのSPコードを打ってございますので、そういったものも活用しながら工夫を凝らしまして、障がい者に対する配慮もしてまいりたいということで考えてございます。

最後の6ページでございますが、誘客に関連いたしまして、今回、障害者芸術・文化祭を同時に開催いたしますので、そういった方々への取組ということでペーパーをまとめて

ございますが、実行委員会の専門部会に観光・おもてなし部会というのがございますが、その下に、特に障がい者に向けた対応を具体的に検討するため、施設関係者、あるいは障がい者ご本人も参加する実務者会議というのを作ってございます。この会議は、障がい者が文化祭事業に参加するに当たっての課題を洗い出したり、改善に向けて生かすということを目的としてございますけれども、10月1日の1年前イベントにおきましても、実際にこの方に行事に参加をしていただいで、本番に向けた問題点の洗い出しをしていただきました。

その中では、例えば、車椅子スペースを用意したんだけど、観客が多くて出入りが不自由だったといったような問題、あるいは仮設スロープを作ったんだけど、そのスロープが柔で、結構厳しかったというような、実際にやってみなきゃ分からなかったというような問題も出てきてございますので、非常に意味があったなと考えてございます。そういったものを今後に生かしていきたいと考えてございます。

以上、文化祭の開催が地方創生の強力な後押しということで申し上げておりますので、成功に向けて情報発信、誘客においても、しっかり取り組んでまいりたいと考えてございますので、委員の皆さんにおかれましても、是非御支援いただくようお願いしたいと思います。

**濱田委員長** ありがとうございます。

以上で説明は終わりました。

これより質疑に入りたいと思いますが、どなたかございませんか。

**嶋委員** 来年の国民文化祭に向けて、広くこの文化祭を県民に認知していただくには、県民が参加することはとても大事だと思いますので、しっかりやっていただきたいと思いますが、先ほどの説明で手伝い隊ですか、1,300名の登録があるということですが、これは目標は何人にしておられますか。

**高橋企画・広報課長** できるだけ多く集めた

いと思っておりますが、とりあえず今年は千名を目標にしております。

**嶋委員** 目標を超えて……。

**高橋企画・広報課長** 今年を超えました。

**嶋委員** もっと高い目標を……。

**高橋企画・広報課長** 最終的に5千名を目指してやりたいと思っております。

**嶋委員** そのために何か……。

**高橋企画・広報課長** いろんなところに働き掛けをさせていただいています。企業回りとかもやっていますので、そういったところで、「あ、分かりました」ということで、社員の皆さんに声を掛けていただく、あるいは県庁の職員にもしっかり声を掛けてやる。それから、JRのデスティネーションキャンペーンのときにボランティアの登録をした方が10万人ぐらい実はいます。その方のうち再登録をした方が5万人ぐらいいるので、そういった方にもしっかり声を掛けて、また次もやってほしいなというようなことも考えてございます。

**嶋委員** 私もいろんな会合で来年は国民文化祭が大分県であるということを挨拶の中にしっかり入れているんですが、まだまだ認知度が低いと思うんですよ。翌年のラグビーワールドカップの認知度に比べて随分低いと思いますので、負けないように頑張ってください。

**高橋企画・広報課長** 広報グッズもいろいろ作っておりますので、是非いろんなところでお話をするようなときにお声掛けいただき、配れるものもありますので、是非お願いいたします。

**濱田委員長** ほかにいいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

**濱田委員長** それでは、御意見もないようでありますので、これで文化・スポーツを活用した地域振興の取組及び国民文化祭における誘客・情報発信等への取組状況についての説明を終わります。

執行部の皆さんありがとうございました。

〔企画振興部、国民文化祭・障害者芸術

文化祭局退室〕

**濱田委員長** では、内部協議に入ります。

前回の本委員会調査時に、現地調査について、委員長、副委員長に御一任をいただきましたが、案について出来上がりましたので、事務局から説明をさせます。

〔事務局説明〕

**濱田委員長** はい、では今の説明に意見ございませんか。

〔協議〕

**濱田委員長** はい、これでひとつお願いいたします。

もし、計画修正等がございましたら、委員長、副委員長に御一任をお願いいたします。

これで委員会を終わります。